

# ご提案書

初期出火避難のために

## *Life Keeper S*

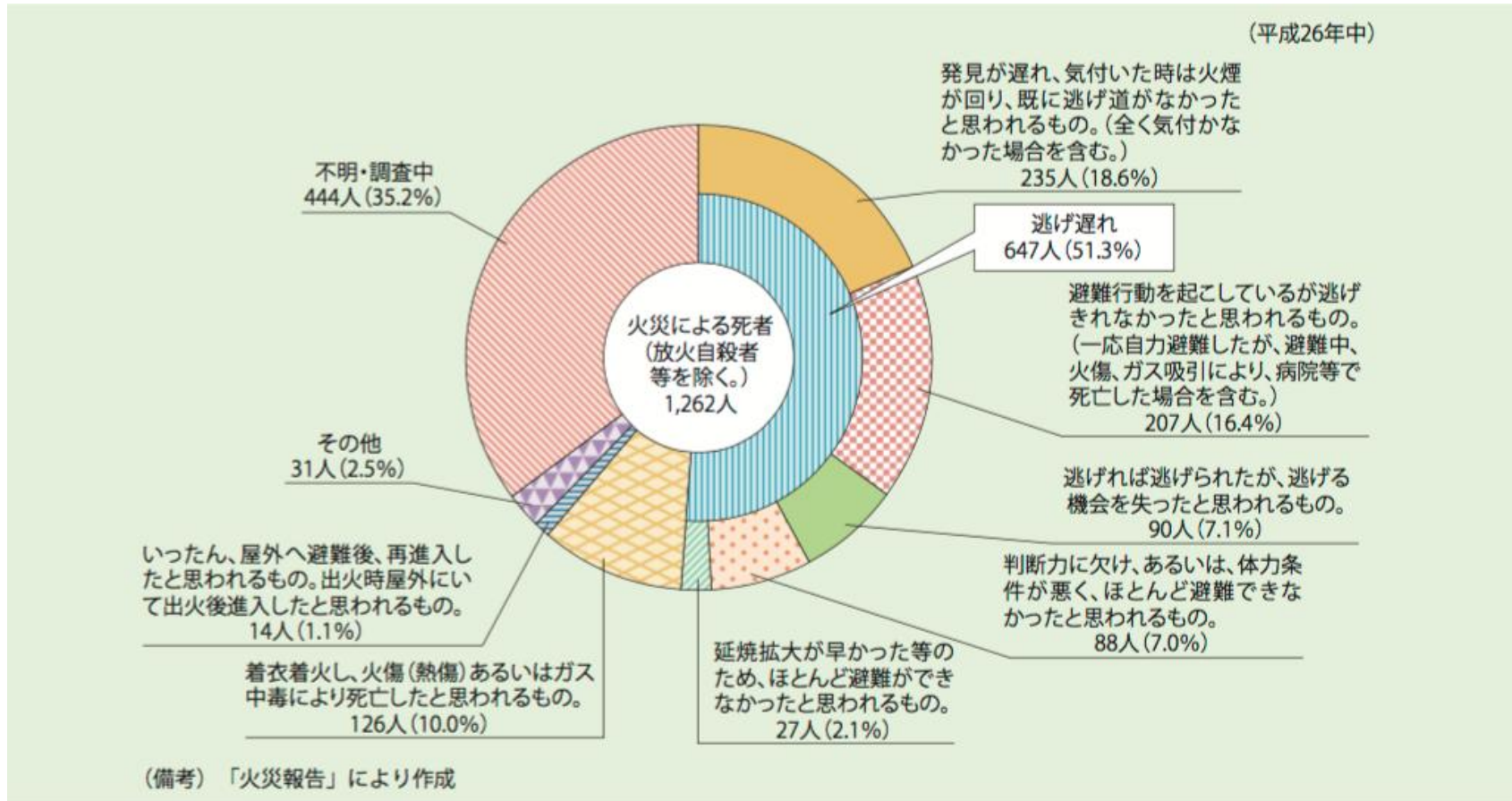
2017年4月

水の力創造社株式会社



# 火災時の死亡原因

火災が発生して死者では逃げ遅れが約5割以上にのぼります。



## 煙、有毒ガスの危険度増加傾向



- ① オフィスビルの高層化、住宅の3階建て等の高層化  
\* 煙のスピードは水平方向には毎秒0.5m（人が歩くスピード）  
垂直方向は毎秒3～5m（自転車速度）
- ② 新建材、プラスチック製品の多様化  
\* 木材の10～20倍の煙が発生
- ③ 工場での化学薬品利用多様化  
\* 有害ガス成分複雑化
- ⑤ 住居者の高齢化  
\* 避難動作の遅れ
- ⑥ 首都直下型地震、南海地震発生率が高まる  
\* 東日本大震災から大震災に危険度が急激に高まっている
- ⑦ 電気製品利用増加  
\* 漏電火災の危険度が増している





## 防煙マスクの必要性



火災が発生した際に異臭や煙によりパニックが起きやすくなります。  
視界20mの煙は極薄い濃度ですが、50m×100m広さでも出口が非常に見えにくくなり  
見かけ以上の濃い煙に感じます。（防災センター等で体験コーナーもあります）  
病院への搬送後、死亡原因で圧迫死も報告されています。

このような毒ガスや煙のパニックならない為に、*Life Keeper S*は有効な防災用品です。

出  
火



毒性ガス：毒性ガス：シアン化水素 塩化水素 ホルムアルデヒド、アンモニア、ベンゼン、硫化水素、アクロレインなど

煙：目の刺激で目が開けられなくなり、周囲の視界を妨げ、避難が困難になります。また、喉への刺激で呼吸も困難に。

熱：熱が発生します。直接反射熱などを受けると皮膚が火傷する。



# ライフキーパー仕様

Life Keeper Sは、初期避難用を目的として非常に有用な商品です。

## 【使用方法】



1 開封し、取り出します



2 マスクを展開します



3 かぶります



4 ひもを引きます



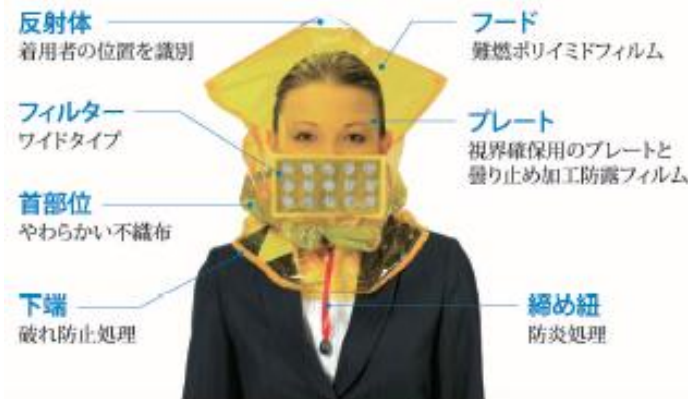
5 フィルターを密着させます



6 後は迅速に避難を！

- 小型のポケットサイズパウチ採用で携帯にも最適。
- 人間工学的設計による優れた着用感。
- 暗い火災現場の微細な光でも着用者の位置識別可能。
- 難燃性の透明素材により、しっかり視野を確保。
- マスクを着用したまま会話が可能。
- 米国産業安全公団(OSHA)基準の毒性ガス試験(HCI)合格。
- メガネをかけたままでも簡単に着用可能。

## 【名称】



- 【材 質】 難燃ポリイミドフィルム
- 【耐熱性】 -296℃から450℃まで使用可能
- 【色】 オレンジ
- 【包装外寸】 縦21cm×横12.5cm×幅2.6cm
- 【重 量】 総重量:約49グラム

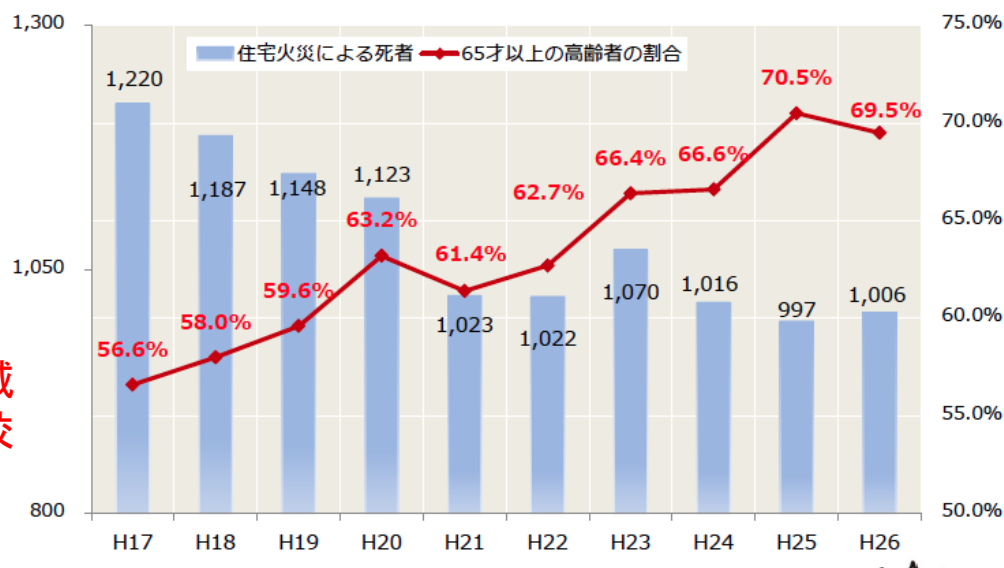
## 一般家庭での必要性

Life Keeper Sの利用で火災時の怪我、後遺症を軽減する事を大切とした商品

建物や家具などを燃えにくくする。有害ガスを発生しにくくさせる。火災報知器設置を義務付けする対策で死亡者が減少傾向にあります。  
交通事故の死亡者減少とは違う点は、高齢者世帯が増えた為に高齢者の死亡者が増加傾向にあります。（65歳以上が7割を占めています）  
後遺症の高齢者も増加していると推測されます。  
また、現在の建物は、木造/モルタルから鉄筋コンクリート化により火より、煙や有毒ガスが密閉度の高い室内に充満する事が懸念されます。

Life Keeper Sを身近な場所に置いて火災時に使用。  
特に高齢者世帯では、高齢者に対して常時携帯させる。

- ①後遺症の軽減によりの医療費負担軽減
- ②高齢者においては介護負担軽減
- ③早期体調回復による出勤、登校などの日常生活復帰





## 負傷でない火災での症状

平成25年度の死亡者は1,278人（自殺/殺人及び巻き添えになって死亡した人数を除く）それに対して負傷者は6,858人の5.3倍となっています。ただし、負傷者は一般的にケガをするなど外傷を意味します。

火災による喉や目が痛くなる病院に行った人数のデータは集計がありません。

また、地下商店街、地下鉄、デパートなど、何処で火災に遭遇するかわからない為危険で注意する事が難しい面もあります。その点が、交通事故との違いです。

「自分の身は自分で守る」という意識が大切です。

近年、二一スで報道されている、古タイヤ産業廃棄物工場、大手倉庫、強風による糸魚川市の広範囲火災など、出火元から離れた場所まで風向きにより煙が広がる大規模火災も見受けられます。

昔の木造住宅大規模火災と違い、建材、化学製品が多くなり有毒ガスも懸念されます。遠くで火災が有っても、煙が来る事も考えなくてはなりません。

喉や目が痛い事により学校、仕事を休む、病院への通院をする事による家庭生活にも大きな影響を及ぼす事も考えておく必要があります。



## 地震による火災

### 内閣府発表での大地震発生確率

- \* 首都圏直下地震（30年以内に70%）
- \* 東海地震（30年以内に88%）
- \* 東南海地震（30年以内に70%）
- \* 南海地震（30年以内に60%）
- \* 日本海溝、千島海溝型地震（30年以内に99%）

阪神淡路大震災では、当日死亡者は75%。90%が倒壊。焼死は7%です。  
発生時間が早朝という事で火災が少ないという点があります。

首都圏直下型で最悪の場合、16,000人が焼死という専門家の意見もあります。  
また、煙、有毒ガスによる避難後の軽度、重度後遺症人数に関してはデータがありません。

Life Keeper Sを常時携帯するというのも自分の身を守る一つの手段です。



## Life Keeper S 特徴



Be prepared and have no regrets

備えあれば憂いなし